

## 驚異の部屋の扉を開けて

15世紀のイタリアに始まり、18世紀にかけて、ヨーロッパの貴族達の間で盛んに作られた不思議な部屋があります。それは「驚異の部屋」。

近年では、ドイツ語の「Wunderkammer (ヴンダーカンマー)」という言葉でも知られるようになった「驚異の部屋」とは、珍しい化石・鉱物、遠い国の動物の剥製、珊瑚や貝殻のコレクション、骸骨、精巧に作られた象牙の塔…、ありとあらゆる好奇心を刺激するものを蒐集し、「一つの場所」に詰め込んで陳列するというものでした。

自然界の物から人工的に作られた物、古代の遺物など、様々な物が陳列棚に並べられた部屋は、博物館や美術館の元祖とされながらも、それらと一線を画し、異なった魅力に満ちたものでした。

蒐集家達の「珍しい物、唯一無二のものを集めて飾りたい。」という純粋な情熱の眼鏡にかない、飾られたものは、ユニコーンの角、不可思議な機械、美しき蟬人形など、胡散臭く、大いなる愉悅の入り混じった物で満ちあふれていました。

現在のように、日本との貿易が盛んであったなら「河童のミイラ」は、真っ先に飾られたことでしょう！「天狗の団扇」や「八咫鳥のはく製」などといったものも現れていたかもしれません。

その混沌とした独自の世界観にこそ、「驚異の部屋」の魅力があるのです。

残念ながら、当時多数つくられた「驚異の部屋」の殆どは、様々な理由で消滅。現存するものは、オーストリアのインスブルック郊外にそびえるアンブラス城など、数える程しかありません。

しかし、「驚異の部屋」に未知なる物を全て詰め込もうとした熱き情熱は、形を変え、現代に生きています。

荒俣宏さんが私たちにを見せてくれる世界は、蒐集家達が夢見た「驚異の部屋」そのものではないのでしょうか。



コペンハーゲン大学の医学教授だったオーレ・ヴォルム (1588-1654) の「驚異の部屋」。

## 我こそが博覧会キング！

五戸出身の興行師 弓人の華麗なる冒険

戦前期、在米邦人の間で、三大キングと呼ばれた人々がいたことをご存知でしょうか。

カリフォルニアでワイナリーを成功させた「ブドウキング」長澤鼎 (ながさわ かなえ)。男爵芋で一大農園を築いた「ポテトキング」牛島謹爾 (うしじま きんじ)。そして、「博覧会キング」と呼ばれた、青森県出身の櫛引弓人 (くしびき ゆみんど;「ゆみと」とも) です。

櫛引弓人 (1859-1924) は、陸奥国五戸村生まれ。上京し、慶應義塾の門を叩くも、相場で失敗。無一文で渡った新天地アメリカで、度胸と機知と天才的なハッタリを武器に、興行師としての道を歩み始めます。

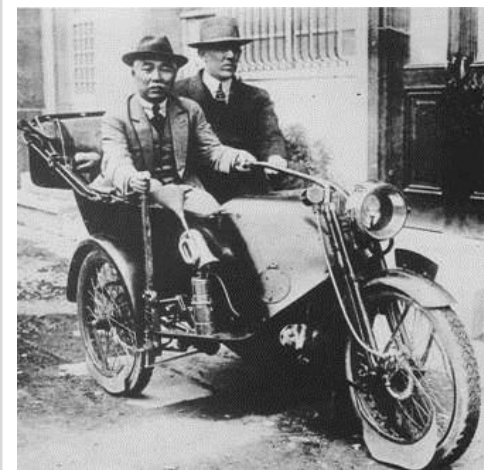
電車に轢かれて片足切断、度重なる興行の失敗で経済的に困窮するなど、苦境に陥ることの多かった弓人ですが、「この頭さえあれば、遠からず運命が開ける」と攻めの姿勢を貫きます。

大小の博覧会を手がけ続けた弓人ですが、大正四 (1915) 年のパナマ太平洋万国博覧会では、日本興行の一切をプロデュースして大盛況。博覧会キングの名を不動のものにします。

また、博覧会以外にも、川上音二郎一座のアメリカ興行を計画したり、アトランティック・シティに日本庭園を造るなど、意欲的に活動を続けました。飛行機が珍しかった大正期の日本に、曲芸飛行の興行をもたらしたのも弓人でした。東京・青山練兵所で行われた曲芸飛行の興行を目の当たりにした、YS1 1 設計者、木村秀政 (当時小学5年) は、この時、航空機の道を志した、とその著書に記しています。

大胆不敵で破天荒な生き様に、悪評も多かった弓人ですが、何時如何なる時も心にあったのは、故郷・五戸の山河でした。後年、「胡麻煎餅で渋茶を啜り、山男が売りに来た“そでこ”で半煮え飯をかき込んだ昔が恋しくてならぬ」と綴っています。

## ミュージアムへようこそ ～多様な博物学の世界～



「博覧会キング」櫛引弓人と、ウィリアム・R・ゴーハム (後の日産自動車顧問技師)。弓人は、大正5 (1916) 年、大阪市に内外演芸シンジケート社を設立。アート・スミスを招いて大成功をおさめました。続いて大正8 (1919) 年にはゴーハムを招きます。ゴーハムは、片足の不自由な弓人のため、三輪自動車を製作し贈りました。

この時の記事は、大正8年4月14日の時事新報にも掲載されています。

## 青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184

青森市荒川字藤戸 119-7

電話：017-729-4311 / FAX：017-762-1757

http://www.plib.pref.aomori.lg.jp

## 青森県立図書館 参考郷土室

2016 夏

# ミュージアムへようこそ ~多様な博物学の世界~

地球を記録し、世界を映し出す 世界の・日本のミュージアム

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
探検!東京国立博物館 藤森照信×山口晃	藤森照信/著 山口晃/著	淡交社	2015	069.61367ジ*リ*テ	10214772515
邸宅美術館の誘惑 アートコレクターの息づかいを感じる至福の空間	朽木ゆり子/著	集英社	2014	706.9カチキ*1	10214610291
ルーヴル美術館の舞台裏 知られざる美の殿堂の歴史	バスカル・ボナファー/著 田中佳/訳 ジャン=ピエール・クーデルク/写真	西村書店	2014	706.9ボナフ-*ハ°	10214560210
世界の奇妙な博物館	ミッシェル・ロヴリック/著 安原和晃/訳	筑摩書房	2009	069.8ロヴリック*ミ	10214067128
TOKYO大学博物館ガイド	大坪寛/著	ブルース・インターアクションズ	2009	069.7オウホ*サ	10214012819
愉悦の蒐集ヴンダーカンマーの謎	小宮正安/著	集英社	2007	069.023コミヤ*マ	10213706019
たけしの大英博物館見聞録	ビートたけし/著	新潮社	2002	069.633ビート*タケシ	10212764645
東北おもしろ博物館	加藤貞仁/著	無明舎出版	2001	069.0212カトウ*テ	10212675522
これは凄い東京大学コレクション	荒俣宏/著 養老孟司/著 黒田日出男/著 西野嘉章/著	新潮社	1998	377.28コレハ*ゴイ	10212231600
旅先で寄る奇想博物館	埴ちと/著	小学館	1996	069.6ハナワ*チ	10210957060
明治博物館事始め	椎名仙卓/著	思文閣出版	1989	069シイ*ノ	10200770440

## 通り過ぎ行く博物館 博覧会

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
内国勸業博覧会 明治美術の幕開け 衛生博覧会を求めて		宮内庁	2012	大型708.7ナイクカシ	10215844197
「万博」発明発見50の物語	荒俣宏/著	角川書店	2011	704.9アラマ*タヒ	10214245720
人生は博覧会日本ランカイ屋列伝	久島伸昭/著	講談社	2004	606.9キウシマ*ノ	10213336120
函説万国博覧会史 1851-1942	橋爪紳也/著	晶文社	2001	606.91ハシヅメ*シ	10212660503
	吉田光邦/編	思文閣出版	1985	大型606ヨシダ*ミ	10202600778

## 繰るごとに新たなる発見 ミュージアムな本

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
マッチラベルパラダイム 燐票商標様式美 MATCHBOX LABEL PARADIGM : The Beauty of Matchbox Label Trademark Design	加藤豊/編	木耳社	2011	675.18マッチラベル	10214227314
缶詰ラベル博物館	日本缶詰協会/監修	東方出版	2002	大型 675.18 カツヅメ*ハ	10212771095
1000ブリキのおもちゃコレクション	北原照久/著 清水行雄/著	タツシエン・ジャパン	2002	759キハラ*テ	10212829862
幻獣標本博物記	江本創/著	パロル舎	2004	719.087 イト*ハ	10213131746
大ニセモノ博覧会 贋造と模倣の文化史	人間文化研究機構国立歴史民俗 博物館/編集	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	2015	大型702.1ニセモノ*ハ	10216004529
奇想の陳列部屋	パトリック・モリエス/著 市川恵里/訳	河出書房新社	2012	大型069.023モリエ*ハ	10214439230

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。